

特集

### キャリア教育 を考える

- 【1・2面】人づくり対談 次期学習指導要領におけるキャリア教育の重要性 キャリア教育コーディネーター 経済産業省 生重 幸恵さん・橋本 賢二さん
- 【3面】企業とのプロジェクト学習で「他者」の視点を学ぶ 立教女学院高等学校 清水 亨祐先生 生徒の力を引き出す指導力 大分県立大分豊府高等学校 中原 久典先生
- 【4面】先生たちでつくる私設研究会「京都キャリア教育研究会」 京都キャリア教育研究会 菊井 雅志先生・吉岡 稜太先生

掲載記事の詳しい情報はカンコーWEBサイトのメディア情報からご覧いただけます。WEB限定記事もお読みいただけます。



カンコー学生服



## 人づくり対談

キャリア教育コーディネーター

# 生重 幸恵さん × 橋本 賢二さん

経済産業省 経済産業政策局  
産業人材政策室 室長補佐

# 次期学習指導要領における キャリア教育の重要性



社会に出て自立するために必要な力を育む「キャリア教育」。

昨年答申された次期学習指導要領では、

「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、社会との接続を意識した「深い学び」が求められています。

社会や産業構造が大きく変化する中、子どもたちに対してどのような資質や能力を育成していくべきなのか。

産業界の視点を交えながら、学びのあり方や学校教育に期待することなどをうかがいました。

（対談記事の敬称は省略）

**Profile**

**はしもと・けんじ**  
経済産業省経済産業政策局産業人材政策室室長補佐。平成19年人事院採用。国家公務員採用試験の見直しや人事院勧告のとりまとめを担当した後、平成26年に経済産業省産に出向し、キャリア教育などの産業に資する人材を育成する施策を担当。

**いくしげ・ゆきえ**  
特定非営利活動法人スクール・アドバイザーネットワーク理事長。一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表理事。文部科学省第9期中央教育審議会委員。企業の持つノウハウを学校授業につなげるためのプログラム開発を手がける。

■ **キャリア形成に必要な「体験」と「基礎学力」**

次期学習指導要領の中で、キャリア教育の視点が重要視されています。まずその理由や背景について教えてください。

生重 これまでの職業体験といった一過性の視点ではなく、子どもたちが社会との関わりの中で仕事をし、自立し、主体的に人生を切り拓いていくために必要となる資質や能力をどう育めばよいかと大きく問われてきているからだと思います。多様性の理解だったり、相手の意見を聴いて自分の意見を正確に伝える能力だったり、人間関係形成や社会形成に必要な力をトータルに身につけていくための「体験型」教育が、強く求められるようになってきているということですね。

その背景として、近年の社会人基礎力の低下がひとつとして挙げられています。特に学生の基礎学力のばらつきが深刻化しています。大学生で漢字が書けない、分数やかけ算の計算ができない。義務教育の段階でクリアされるべき学力が身につけておらず、社会に出ても次のステップに進めない。基礎学力は、キャリア教育の土台となるもので、改めて重要視されています。

橋本 確かに、基礎学力は仕事をやる上で必ず必要とされます。今後グローバルにビジネスや市場の拡大が進むと、基礎学力を求められる場面は圧倒的に増えていくでしょうね。小学生の時から読み書きそろばんを積み上げていかなければ、苦勞する。例えば、職人的な仕事も、そこに芸術性など高付加価値を求めはじめた場合、数学や化学の知識が要求されてくるかもしれません。

だからといって、基礎学力をつけるためにただひたすらドリルを解くというのは、子どもたちにとって辛いし面白くない。そこで、実社会と結びついた学習体験が必要になってくると思います。

■ **教科と社会を結びつけ、学びの動機づけ**

生重 そう。知識の詰め込みだけでは身につかないさまざまな体験を通じて社会を意識させることが必要です。

橋本 例えば「ペットボトル」をテーマにして授業を組み立ててみる。技術を知るには理科、仕組みを知るには社会、実際に作るには国語や算数の知識が必要となると、何のために勉強しているかが分かります。学習の動機づけにもつながるのではないかと思います。

生重 そうですね。それぞれの科目をその先にある地域や産業と結びつけることで体験が深まりますね。さらに言えば、問いを立て、自分で学びを深めていく、自分になりたいもの、関心があることに自分で気づいて必要な知識を得るためにアクションを起こすことができる。そのような力を育てたい。なにも全員が高等教育を目指す必要はなく、職業技能を身につけて早くからプロの道を目指す子がいてもいい。自分の資質や得意分野に合わせて潜在的な能力を磨いていくことがキャリア教育の本質だと思います。

橋本 まさに、そこが新卒の離職問題ともつながっていきまます。今、中卒7割、高卒5割、大卒3割が3年以内に離職するといわれています。雇う側としては人材育成の教育コストがかかるので、なるべくミスマッチは避けたい。やはり学生のうちから、社会との関わりを考え、自分が進みたい方向や働きたい分野をイメージできている方がいいわけですね。

一般社団法人  
**カンコー教育ソリューション研究協議会**

「子どものみらい、学びのいま」を考える

菅公学生服株式会社は、長年にわたる学校・教職員様とお付き合いの中で、教育現場の持つ様々な課題を目の当たりにしてきました。この度、学校現場の皆様と同じ目線に立ち、教育有識者や地域行政、企業とともにチームとなって「子どものみらい、学びのいま」を考えていく一般社団法人を設立いたしました。

詳しくはコチラ

**カンコーホームルーム**

調査対象  
日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、中国の高校生600人(各国100人)

調査方法  
インターネットリサーチ

調査時期  
2016年8月

「学校が好きですか？」  
「好き」と答えた高校生

アメリカ	85.0%	イギリス	73.0%
中国	85.0%	韓国	62.0%
オーストラリア	76.0%	日本	58.0%

※今後、日本の子どもたちの学びに対するニーズ調査も進めていきます。



**生重** 大学などでも、実際に企業の担当者を招いて仕事で実際に使える英語をもう一度学び直したり、地方の大学では地元民間企業と共同で研究や商品開発を行う産学連携も活発化したりしていますね。高校の時からこのように学びと働くことを接続していくことで、子どもたちもより将来像が描きやすくなると思います。地方の魅力を再発見することで、地元就職にやりがいを見つけてくるきっかけにもなると思いますし。

**橋本** キャリア教育の入り口は小学校ですが、そこで使えるリソースは地域資源しかないと思います。体験価値を高めながらいかに知識と結びつけた世界を広げられるか、それを高校段階までやっていく中で、子どもたちが自分の特性を見つけたり活躍できる場を感じ取れたりするといったと思います。地元で働くか、都会で能力を生かすか、自分の道筋を納得して選ぶこともできますよね。

**新しい時代に向けて  
求められる  
資質や能力とは**

——ところで、今後子どもたちを取り巻く社会はどのように変化していくのでしょうか。産業界の視点からお聞かせください。  
**橋本** AI(人工知能)、IoT、センサー、ロボットなどが現実社会に実装されてきています。第4次産業革命といわれるこれらの技術の出現が、産業界や就



業構造にもたらすインパクトは非常に大きいとされています。現にロボットは人間の匠の技を再現できるレベルのものもありません。また、IT企業のグーグルは、人工知能を開発しクルマの自動運転を可能にしています。自動車メーカー以外の企業が新規参入してシェアを奪います。こういうことが現実起こり始めています。  
これからの世界は「こたえのない世界」。何がどうなるか、どこがどう結びついていくか、誰がどうリードしていくか、誰もわからない、そんな社会になっていきます。  
——そんな予測困難な新たな時代に、求められる能力や資質とは何でしょうか？  
**橋本** 単なるスキルではないものの、AIやロボットに置き換えることのできない人としての価値、マインドの部分だと思っています。そこには、課題設定力やコミュニケーション能力、分野を超えて専門技術を組み合わせる能力、問題解決能力、自己研鑽意識、といったものが含まれると思います。自分の専門知を立

場の違う相手にもわかる文脈や言語で、きちんとコラボレーションしていく翻訳能力といったものも必要でしょう。自分が社会の中で何をしたいか、何ができるか、その価値を見つけていくことが大きなポイントになると思いますね。それは大それたことでもなくてもいい。  
また、チームで仕事をする場合、ある分野で相対的に自分より秀でた人がいるなら、その人に任せられた方が効率的です。そのことがわかる、あるいは読めるというのが大事な資質です。リーダーシップとは、先頭に立って人を引っ張っていく能力かというところでもないと思うんです。ゴールイメージを持って自分の果たすべき役割をしっかりとこなす、その時自分がなにを成さねばならないかがわかる、そこが大切なんですね。  
**生重** 確かに、頼る、任せる力は大切ですね。ひとつのことに集中的に取り組むタイプの人もいれば、複数のタスクをバランスよくこなす人もいます。相手を不快にさせず謝れる人、縁の下でチームを支えるマネージャー的な人も仕事の現場では必要不可欠な存在。それぞれが持っている多様な資質に気づき、認め合うことで協働作業が成り立っていきます。横並びで一律一定の能力にはめこむのではなく、違う能力や個性を生かし合う。アクティブ・ラーニングなどが、互いを理解する気づきの場となっていけばいいと思いますね。

**体験や気づきを  
「見える化」できる  
キャリア・パスポート(仮称)**

——次期学習指導要領では、小・高を通じたキャリア教育の充実を図るため、「キャリア・パスポート(仮称)」の活用検討が示されています。これについては、どのようにお考えですか？  
**橋本** 自分がやりたいことや学んできたことなど、自分の価値をどれだけ強く持てるか、あるいは問い続けられるか。キャリア・パスポート(仮称)などの学習ツールもその点で有用だと感じます。体験で得た気づきを見える化して振り返る。成功体験や失敗体験を次の体験につなげていくことで、自分で考えて行動できる主体的なキャリア形成につながると思いますね。

**生重** 自分がどんな学びをしてきたか、どんな失敗をして、何に気づいて、それをどんな風に克服してきたか、キャリア・パスポート(仮称)に記録することで自分の価値や体験を相手に伝える訓練にもなりますね。大卒入試や就職試験の際の評価でも体験値や人間性が重視されつつあります。自分の言葉を磨き、語る上でも役立つと思いますね。  
——最後に、全国の先生方に向けてメッセージをお願いします。  
**生重** 体育祭や文化祭といった学校行事にもキャリア教育の視点を入れて、ぜひ外部の人と協働してほしいですね。企業や地域とどんな風にコラボし、生徒



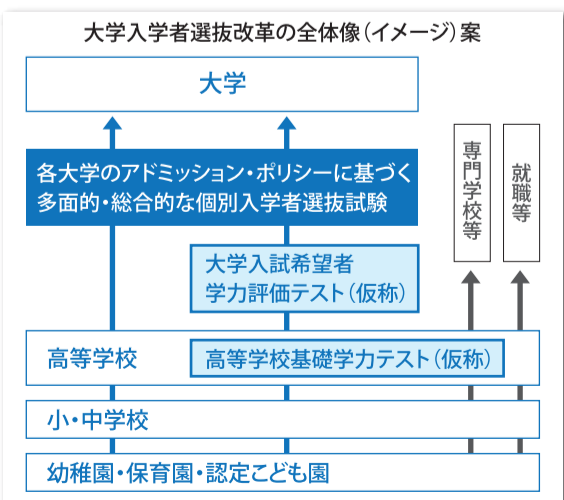
に何を学ばせたいか、要望なり相談なりをキャリア教育コーディネーターに投げかけていただきたいと思います。地元のことや学業や魅力を伝える、そのつなぎ手として学校があることに気づいて、身近なところから一緒に始めましょう。

**橋本** 先生方には、まずは一歩学校の外に出てみてほしいです。最初は反応をみるぐらいの軽い気持ちでもいい。産業界にも思いを持った人はたくさんいます。応援してくれる企業をみつけて相談して、地域を巻き込みながら、専門的かつ体験的な学びを一緒に見だしていってほしいですね。(取材/川田達彦)

**次期学習指導要領における  
キャリア教育の方向性**

- 小・中・高校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実。
- 子どもたちのキャリア形成の方向性と日々の学習を関連付けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- キャリア教育の中核となる特別活動の役割を一層明確にするとともに、「キャリア・パスポート(仮称)」の活用を図る。

**これからの大学入試では、「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」や  
高校時代の活動や適性、意欲などが総合的に評価されます。**



キャリア・パスポート(仮称)を通じて蓄積した  
「何をどのようにして学んできたのか」  
「どのようなキャリアを描くのか」が重要になります。

各大学の個別入学者選抜試験での評価項目(例)

- 高校時代の学習・活動歴
- 小論文
- 志望理由書  
学習計画書
- 資格・検定試験の成績
- 各種大会等での活躍や顕彰の記録
- 面接・ディベート  
プレゼンなど

(文部科学省HP・資料をもとに作成)



カンコー学生服が開発した生徒向け手帳は、  
キャリア・パスポート(仮称)としてご活用いただけます。



詳しくはコチラ……………  
掲載記事の詳しい情報は  
カンコーWEBサイトの  
メディア情報からも  
ご覧いただけます。





キャリア教育 取り組み事例

# 企業とのプロジェクト学習で「他者」の視点を学ぶ

複雑な課題に対して、生徒自身が問題解決、意志決定、情報探索を自律的に行い、制作やプレゼンテーションを目的としたプロジェクト学習(PBL)に取り組んでいる東京都立教女学院高等学校。アディダスとの協働による30秒CM制作や京王電鉄とのポスター共同制作など、企業との共同学習を推進している同女学院の清水亨祐先生(化学担当)にお話をうかがいました。

## バーチャルではなく 五感を通して 現実を知ってほしい



立教女学院高等学校  
清水 亨祐 先生

「今回、JFEスチールから提示された『女性の総合職を採用できるようにせよ!』のミッションに対し、プログラムに取り組んでいらいっしょにやります。生徒たちに一番学ばせたかったことは何ですか。」

「社会的な課題に取り組む時に必要になるのが『他者』の視点です。今回のプログラムは、さまざまな視点でモノを見ることに重きを置きました。就職活動を控えている女子大生OGから企業を選ぶ際のポイントや職業観をインタビューしたり、企業

の採用担当者から話を聞いたたりしました。立場による視点の違いなどを学習でき、いい体験につながっているといます。——キャリア教育やPBLに期待するもの、得られるものはなんだとお考えですか。



一言でいうと「体験型」の学びですね。比較的頭のいい子たちは、実際にモノを見なくても質問に対してある程度、的を得た答えを導き出せる力を備えています。けれど、個人の頭で考えていることはたかが知れています。実際に現場に足を運んで、五感を通して現実に触れる体験をさせ、自分で考えているよりも世界は広いぞということを知ってもらいたい。与える課題は簡単でないものの方が面白いと思います。考えたこともないような世界の課題や、出会ったことのない未知のものを与えてみる。そこから課題↓解決↓発信、このプロセスは一人ではなかなかできません。グループ

ワークならはたかと思えます。——学校の先生方にとって、直接企業とコンタクトを取るのハードルが高いと感じますが。私の場合は、直接企業ではなく、まず大学訪問を足がかりにしました。「生徒が進路先として興味を持っているので伺いたい」とメールを送るところからスタートしました。教師側も大学の研究室の実情を知ることが進路指導がしやすくなりました。まずは担当する指導教科から攻めてみるのがいいでしょう。研究室とつながりができれば、そこから大学院生、さらに企業とつながったりもできます。あと、キャリア教育コーディネーターに相談してサポートしてもらおうもおすすめですね。

——まずは、一歩学校の外にと

### 生徒 & 大学生OGからのメッセージ



・ものづくりの現場を見学して、ホームページでは得られないリアルな迫力、雰囲気を目の当たりにできた。  
・進学先を決める上で、さまざまな仕事を視野に入れながら考えられるヒントになった。



・大学でも行われる企業の課題を解決するプレゼン授業を、高校生の時から経験することでコミュニケーション能力が高まり、大学でも役立つと感じる。  
・就活中の大学生の悩みや実感を前もって知ることが、自分が大学生になった時に役にたつはずだ、つかめるのでは。

——最後に先生方へのメッセージをお願いします。  
グループによるプロジェクト学習はさまざまな手法があります。テーマから考えをまとめ提案するものだけでなく、ポスターや動画の制作を通じた表現、発信など多様です。あまり難しく考えずに、生徒にこうなしてほしい、こんなことを学ばせたいというビジョンを持って、先生自身が楽しんでながら作っていくといいですね。

(取材/中村広正)

## キャリア教育からみた部活動 生徒の力を引き出す指導力

中学生や高校生の人間形成に大きな役割を担う部活動。チーム力アップのための練習法をはじめ、生徒の潜在力や創造力を引き出す指導のあり方を担当の先生方にお聞きしました。

### 部活指導 演劇部顧問

大分県立大分豊府高等学校 中原久典先生



プロフィール  
平成16年より13年間、大分豊府高等学校演劇部の顧問を務める。大分県高文連演劇専門委員会長などを歴任。

## チームの一体感と コミュニケーション能力を 大切に育む

### ◆集団で行う簡単なゲームを チームづくりに活用

演劇ではチームの一体感が非常に重要です。芝居づくりは「仲間づくり」とも言えるほどで、それがなくてはほぐれたい舞台にしようとしてもうまくいきません。そのため数年前から、新入部員たちに対して、集団でゲームを通して行う仲間づくりを実践して行っています。内容は簡単で限られたヒントからお互いの誕生日を推理したり、他の人と発声のタイミングが重ならないように数字を数え上げていくエクササイズなどさまざまです。入部直後の2日は演劇だけでなく、生徒た

ちの今後の人生においても大切になってくること。学校生活でも、相手の話を上手に聞ける子は明らかに成長します。脚本は主に私が書きますが、それはあくまでベースで、まず生徒たちに読んでもらって改善点や気になった点などの意見を出してもらいます。生徒たちと議論を交わし、修正しながら一本の作品を完成させていきます。生徒が自ら考える部分を脚本段階から設けることで、「自分の作品」という意識が生まれ、上演後の達成感を強くさせていると思います。そしてその達成感が次の作品へのモチベーションや、自己肯定感につながっていると感じます。生徒の成長を実感できたとき、私たち教員も達成感を覚えることができます。部活動ではその成長を間近に見ることができるので、彼らのさらなる成長のために頑張り続けていこうと思いますね。



生徒たちが設営した舞台上で稽古している様子

演劇部・実績  
●平成25年・26年 九州高等学校演劇研究大会 優秀賞  
●平成27年 九州高等学校演劇研究大会 最優秀賞  
第61回全国高等学校演劇大会 最優秀賞(文部科学大臣賞)、創作脚本賞  
●平成28年 九州高等学校演劇研究大会 優秀賞

(取材/川田達彦)





キャリア教育 活動報告

# 先生たちでつくる私設研究会

## 「京都キャリア教育研究会」

「京都キャリア教育研究会」は京都府宇治市の先生たちが中心となって発足した私設研究会。会長の菊井雅志先生をはじめ、小学校から大学まで約15校40名を超える先生方が参加。先生たちが抱えるさまざまな課題や不安と向き合い、先生自ら、アクティブ・ラーニングを実践しています。

### 草の根活動で 現場から情報発信



京都キャリア教育研究会 会長  
宇治市立広野中学校  
菊井 雅志 先生

私も以前は「キャリア教育＝職場体験」という誤った認識でしたが、2013年にキャリア教育指導者養成研修を受講した際、「子どもたちの将来を思い描いて、その目標に向かいどのように導くのか」というキャリア教育の根本を知り、感銘を受けました。当時、学年主任として進路指導に携わっていた私は、子どもたちには自分の意志で進路を決める自信を持ってほしいと考えていました。自分が目指しているものはキャリア教育ではないか、それが研究会立ち上げのきっかけです。

研究会の主眼は「草の根活動」。トップダウンでなく現場に原動力があるので、先生たちのモチベーションは高く、現場からキャリア教育を発信するんだと意気込んでいます。部会運営は部会長に任せており、テーマは先生たちの興味のあるものや、それぞれが教育現場で感じる「不安」など。悩みや不安にみんなで目を向けて共有することは、解決のヒントを導き出すことにつながります。特に若い先生は、目の前の仕事に追われ、頑張っているのに

### 研究会を通じ やりがいを実感



京都キャリア教育研究会  
組織・多忙部会 部会長  
宇治市立三室戸小学校  
吉岡 稜太 先生

せん。苦手意識を持つ教科があればなかなか授業の見直しも立てにくく、それが多忙感にもつながっていると思います。そこで自分の専門である保健体育で、水泳の系統表を作成することに。中学校に進学するまでにできるようなってほしい目標を明記することで、体育が苦手な先生でも指導の見通しが立てられるように配慮しています。私自身この系統表を作っているときは、子どもたちが上達していく姿を思い描け、楽しく充実感でいっぱいでした。

現在、「組織・多忙部会」の部会長を務めています。研究会に入ったのは菊井先生に憧れてです(笑)。いざ多忙について考えてみてもなかなかテーマが定まらず、菊井先生に相談したところ「自分らしく楽しく働ければ、多忙でも『多忙』と感じなくなるのでは」とアドバイスをいただき、「多忙感」をテーマに研究を始めました。私は小学校教諭なので、専門外の教科も教えるなければいけ

**京都キャリア教育研究会 ロゴマーク**

キャリアの語源であるラテン語のCarrusが意味する「荷台」をモチーフにしたロゴマークには、子どもたちが自分の人格や選り抜いたものを載せ、自ら運んでほしいという期待が込められています。また星をかたどった車輪は教員を表し、子どもたちを支えながら、彼らの「星」でありたいという思いを込めています。

Kyoto Career Education Study Group  
organized in 2014

(取材/川田彦彦)

## 先生のための手帳!

子どもたちとの時間を増やすための「業務効率」とより良い指導につながる「主体的な学び」がこの一冊で実現します!

2017年度版 **Teacher'sプランナー手帳**

最新教育用語集付き

- Point 1 複数業務を「見える化」して管理できる!
- Point 2 個人目標の設定と振り返りができる!
- Point 3 指導事例や最新の教育情報などが満載!

活用者の声

授業のスケジュールや進行速度を各クラスで管理しやすくなりました。目標設定ページは今学期の設定されていた内容を書き、それに向けて具体的方策を書いて活用しています。

詳しくはコチラ

Teacher'sプランナー手帳 検索

[http://kanko-gakuseifuku.co.jp/teacher\\_support/teacher\\_planner](http://kanko-gakuseifuku.co.jp/teacher_support/teacher_planner)

好評につき在庫残りわずか!

### 活動紹介

同研究会には「組織・多忙部会」「意欲向上部会」「コミュニケーション部会」「積極性向上部会」の4つの部会があり、仕事の合間をぬって会合を実施しています。また夏と冬の年2回、研究大会を開催し研究成果を発表。今後、これまでの総括や見直しを行い、次期の取り組みを再検討します。

研究会での検討事項を学校に導入する際は、管理職の承認を得て行い、年に1回活動紀要を作成し、報告も行っています。

### 活動事例

- 職員室内の人間関係・チームワークについて考える研究では、参加者が所属する学校で検討事項を導入。先生間のコミュニケーションが図られたことで、生徒指導や教育相談などの担当教員の連携が強化され、生徒指導数が大幅に減少した。
- 京都エリアに昔から推奨されている泳法「ドル平」(平泳ぎとドルフィンキックを合わせた泳法)の研修会を実施。「ドル平」の指導に不安を感じていた先生もいたが、指導方法やその有用性を学校内で共有でき、不安が解消できた。

※取材させていただいた先生方の在籍校は取材時のものです(2017年2月時点)

カンコータイムズのアンケートに答えて 抽選でプレゼント!

[CASIO] ① EX-SC100BK ハイスピードカメラ学校専用モデル 5名様

[カンコー学生服] ② 図書カード 500円分 15名様

応募方法 同封のアンケート用紙またはWEBの応募フォームよりご応募ください。(応募締切/2017年5月31日)

発行: 菅公学生服株式会社 カンコータイムズ編集部 田中・川田  
メールアドレス: k-solution@kanko-gakuseifuku.co.jp  
TEL: 086(898)2590 FAX: 086(898)2513

ご意見・ご感想、取材のご希望についてはメールアドレスもしくはWEBにて受付を行っております。カンコータイムズはこれからも不定期に発行していきます。次号をお楽しみに。

カンコータイムズ vol.6 2017年4月発行